

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究(A) (一般)
研究期間：2018～2021
課題番号：18H03621
研究課題名(和文) 持続的な平和と開発のためのガバナンス：ネットワーク科学とデータ科学を用いた研究

研究課題名(英文) Governance for Sustainable Peace and Development: Interdisciplinary Study Based on Network Science and Data Science

研究代表者
阪本 拓人 (Sakamoto, Takuto)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：40456182
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,900,000円

研究成果の概要(和文)：持続可能な平和と開発を実現するため、国際社会では国家・国際機関・非政府組織(NGO)・民間企業など様々な主体が協働して地球規模の課題に取り組んでいる。本研究では、このグローバルな協働のネットワークの全体像やその変容を明らかにするため、文理様々な分野の研究者の協力のもと、先端的なネットワーク科学やデータ科学の手法を駆使した学際的な研究を行なった。結果、開発援助のグローバルな協調が過去半世紀にわたって拡大・多様化する一方で、援助・被援助の関係において比較的安定的な構造を保持してきた点など、様々な興味深い知見が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
紛争・感染症・貧困・気候変動など人類は地球規模で様々な課題に直面しており、これらの課題を解決し、持続的な開発と平和を実現していくためには、国際社会の多種多様なアクターの協調と協働が欠かせない、このような協調と協働のネットワークは、その巨大さ・複雑さゆえにこれまでその全貌が十分に把握されてこなかった。本研究は、計算機を駆使した最新の分析手法によりその限界を乗り越え、開発援助などの分野でこうしたネットワークの全体構造とその変化を厳密に捉えることができた。その成果は学術のみならず、上記のような課題に対する国際社会の取り組みにも資するものである。

研究成果の概要(英文)：Realizing sustainable peace and development across the globe demands intense collaboration among a broad array of international actors, including states, international organizations, nongovernmental organizations (NGOs), and private companies. In this study, we conducted an interdisciplinary research using advanced network science and data science methods to clarify the overall picture of this global collaborative network and its temporal evolution. The study has obtained significant findings, including, for example, a relatively stable donor-recipient structure of the global development cooperation, which has apparently undergone a considerable degree of external expansion and internal diversification over the past half-century.

研究分野：国際関係論

キーワード：グローバルガバナンス 人間の安全保障 ネットワーク科学 データサイエンス 持続可能性 開発援助 国連 テキスト分析

1. 研究開始当初の背景

- (1) 貧困、紛争、感染症等の多様な脅威に晒される脆弱な人々の「人間の安全保障」を推進し、持続可能な平和と開発をグローバルに実現することは、今日の国際社会が直面する重要な課題の一つである。環境問題や軍縮など他の地球規模課題群と同様、そこでは、主権国家・国際組織・非政府組織・民間企業等の多様な主体がグローバルに構成するネットワーク、すなわちグローバル・ガバナンスの重要性が頻りに指摘されてきた。特に1990年代末以降、途上国支援をめぐる「援助協調」が進展する中で、「ミレニアム開発目標(MDGs)」「持続可能な開発目標(SDGs)」など、国際社会は、社会開発や平和構築を含む広範な開発分野で数値目標を共有するようになっており、こうしたガバナンスのネットワークが果たす機能やパフォーマンスが、学術的にも実践的にもこれまで以上に問われる状況になっている。その際まず重要になるのは、世界各地の平和構築や開発の現場で、様々な主体が複雑に関係を結び相互作用を展開する中で、いかなる構造を持つネットワークが形成され、限られた資源(ヒトやカネ等)の流れを規定するようになるのか、その全貌を把握することであろう。
- (2) グローバル・ガバナンスをめぐる研究は、密接に関連する国際レジームの研究の系譜もあわせると、開発援助分野も含め、国際関係論においてすでに相当の研究の蓄積がある(山本2008; 稲田2013等を参照)。だが、その大半は、個別の事例研究、一般的な類型論(例: レジームやその複合の類型)やモデル分析(例: 主体間でのレジームの形成や維持を説明するモデル)などであり、上記の問いに答えうる研究、すなわちグローバル・ガバナンスを構成する主体間のネットワークの全貌の解明と分析を志向する研究は、少なくとも平和と開発をめぐる文脈ではほとんど見当たらない。その背景には、多数の主体が形成する複雑で大規模なネットワークを厳密に捉え分析するためのツールを、既存の国際関係論や政治学がそもそも十分に持ち合わせていないという事情がある。加えて、こうした大規模なネットワークをどのようなデータからいかに抽出するのかという問題もこうした研究を展開する上での制約要因となってきた。
- (3) 国際関係論や政治学の外に目を転じると、近年、上述のような方法論的なボトルネックを克服する上で注目すべき動きが起きている(増田・今野2010; Golder and Macy 2014等を参照)。一つは、1990年代末に始まる複雑ネットワークをめぐる研究の興隆である。生態系・WWW・交通網など、自然や社会に存在する多種多様な大規模ネットワークの構造を抽出し、モデル化するための様々な数理的・計算的手法が活発に生み出されている。もう一つの動きは、ほぼ同時期に進行する、Web上での高密度・大容量の「ビッグ・データ」の蓄積と、その効率的な処理・分析を可能にする様々な機械学習の手法の発達である。ここでは、数量データのみならず、自然言語で書かれた文書(SNSから政治文書まで)など様々な媒体のデータが分析の対象となっている。さらに、こうした新たな手法の数々を社会現象の分析に本格的に適用することを目指す「計算社会科学」と呼ばれる分野も勃興し、欧米の統計物理、計算科学、社会学の研究者を中心に学会等の組織化が進んでいる。
- (4) こうした広範な学術状況を踏まえると、持続可能な平和と開発を目指す多主体のグローバルな営みを包括的に明らかにする研究は、実は十分に遂行できる状況にあることが分かる。本研究は、まさにこうした研究を、最先端の計算的手法に依拠して推進するものである。

引用文献

- 山本吉宣. 2008. 国際レジームとガバナンス: 有斐閣.
稲田十一. 2013. 国際協力のレジーム分析: 制度・規範の生成とその過程: 有信堂高文社.
増田直紀・今野紀雄. 2010. 複雑ネットワーク: 基礎から応用まで: 近代科学社.
Golder, Scott and Michael Macy. 2014. "Digital Footprints." Annual Review of Sociology 40 (1).

2. 研究の目的

- (1) 以上を踏まえ、本研究では、国際関係・地域研究・開発経済・統計物理など多様な分野の研究者の協働により、持続可能な平和と開発の実現に関わるグローバルなガバナンスの構造を包括的かつ定量的に分析し評価する。具体的には、以下の三つの課題に取り組む。まず、上述のように、先端的なネットワーク科学とデータ科学の手法を駆使して、人道支援、平和構築、貧困削減等の分野における多主体(国家・国際組織・非政府組織・民間企業等)のガバナンスの構造や動態をグローバルに明らかにする。続いて、こうして明らかにされたガバナンスのネットワークが、対象となる現地社会の脆弱な人々のニーズにどれだけ応答しているのか、地域研究の視点も交えながら評価する。さらに、こうした評価を踏まえ、より応答性の高いネットワークのあり方を検証するシミュレーションを繰り返し、持続可能な平和と開発のグローバルな推進に資する政策提言を導出する。

- (2) このような研究から得られた成果は、学術論文として順次まとめ、国際関係・開発経済・地域研究・計算社会科学などの分野の学術誌に積極的に投稿する。また、海外の研究協力者との合同セミナーや学会での報告等も含め、国外での成果発信にも努めたい。

3. 研究の方法

- (1) グローバルな課題解決をめぐる多主体間の協働関係や相互作用を、多数のノードとこれらをつなぐリンクから構成されるネットワークとして形式化し、これに複雑ネットワーク科学の様々な分析ツール（モデルや指標）を適用することで、こうした関係性や相互作用の大域的な構造とその時間変容を析出する。また、このようなネットワークを構成するに際して、さまざまなガバナンス領域における主体間の相互関係や相互作用（例えば開発援助の供与と受け取りなど）をグローバルに、かつ長期にわたって記録した膨大なデータが必要になる。こうしたデータを機械的に取得・処理し、効率的に管理するために、計算機を活用したデータ科学の先端的な手法（スクレイピングやデータベース等）も活用する。
- (2) ネットワーク科学とデータ科学に依拠した以上の研究手法が、本研究を特徴付ける中核的なアプローチになるが、これに加えて、本研究はガバナンスのネットワークが、現地において脆弱な人々のニーズにตอบสนองのものになっているのかを、アフリカを中心とする地域研究の専門家の知見も踏まえて評価することを目指す。また、研究成果を政策提言につなげるにあたって国連での実務経験が長い研究分担者の知見も積極的に活用したい。

4. 研究成果

- (1) 後述するように当初の目的通りにいかない部分もあったが、4年間の研究期間を通して、持続可能な平和と開発をめぐるグローバルなガバナンス構造の体系的解明につながる、実りある学際的共同研究を行うことができた。成果は国内外の学会で発信され、査読誌を含む国内外の学術誌に論文として掲載された。

- (2) 具体的には、まず開発援助をめぐるグローバルな協調をネットワークとしてモデル化し分析する共同研究を、研究代表者の阪本（国際関係論）、研究分担者の大石（統計物理）・村瀬（統計物理）・瀧川（計算社会科学）を中心に行った。経済協力開発機構・開発援助委員会（OECD-DAC）や AidData といったデータソースから、ドナーからレシピエントへの援助フローに関する粒度の高いデータを取得し、Stochastic Block Models (SBMs) など先端的なネットワーク科学の手法を用いて分析することで、多主体間のグローバルな援助フローの大域的な構造とその時間発展を明らかにした。特に、過去半世紀にわたって様々な変容（ドナーの増加と多様化など）が見られた一方で、メンバーシップが時間的に安定な中核的なドナーグループと中核的なレシピエントグループも一貫して存在するなど、援助協調に関する興味深い知見が得られた（図1参照）。これらの知見は、Academic Council on the United Nations System (ACUNS)や日本国際政治学会の年次総会など内外の様々な会合で発表したほか、学術論文にまとめ海外査読誌に投稿した（報告書作成時点で R&R；プレプリントは <https://arxiv.org/abs/2204.02580> にて公開）。

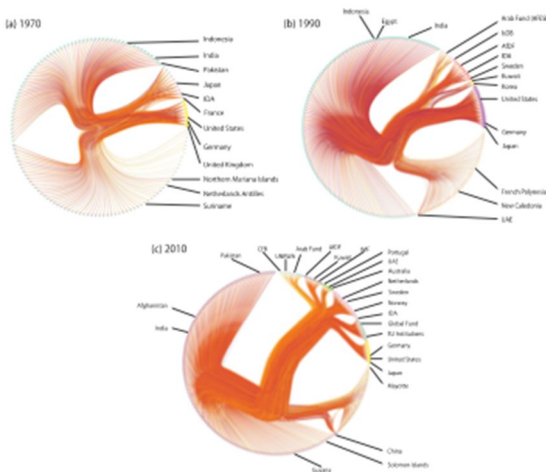


図1 開発援助ネットワークの時間発展

- (3) また、阪本が中心になって先端的なデータ科学の手法、特に大規模テキスト分析の手法を用いて、国連安全保障理事会（安保理）における公開での政策討議を分析した。ネットワーク科学の手法は用いていないものの、国連平和活動の派遣等を通じて世界各地の持続的平和の確立に大きな役割を果たしうる安保理における政治過程を、従来にはない体系的な形で検証することを目指す研究である。研究期間中、まずこれまで開催された9000回ほどの安保理の公式会合の議事録の電子ファイルを全て入手し、それぞれのテキストから各国代表の発言を分離・抽出して、機械的に処理可能なデータセットを構成した。さらに、こうして得たデータに単語埋め込みやトピックモデルといった先端的なテキスト分析の手法を適用することで、たとえば安保理構成国の「平和に対する脅威」への理解がどのように変化し、また主要

国間でどのように違うのかといったことを定量的に明らかにした(図2参照)。研究期間中こうした分析は主に冷戦後の政策討議に対するものに限定されたが、得られた成果は、Annual Conference on Politics and Computational Social Science, Academic Council on the United Nations System (ACUNS), 日本国際政治学会の年次総会など国内外の様々な学会で発信されたほか、国内査読誌『理論と方法』に論文が掲載され、さらに海外査読誌にも論文を投稿した(報告書作成時点でR&R;プレプリントは<https://doi.org/10.33774/apsa-2020-5k2mt>にて公開)。なお、この研究は、(2)の開発援助ネットワークに関する研究とともに、海外学術情報誌「Impact」のなかで取り上げられ、広く紹介された

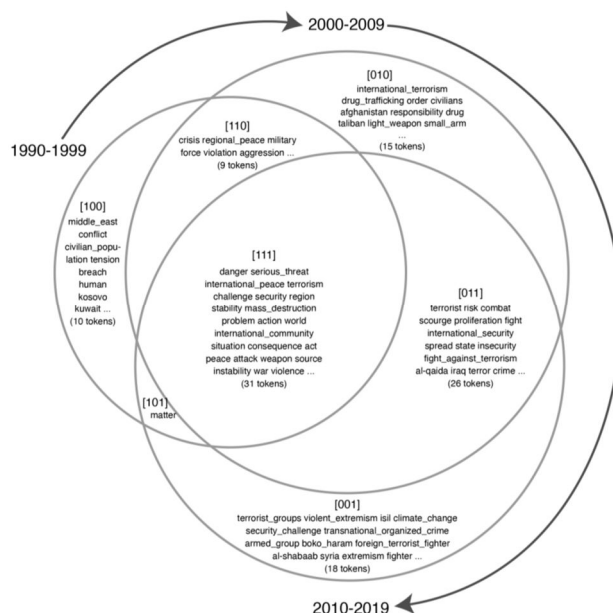


図2 安保理における脅威観念の時間発展

(<https://doi.org/10.21820/23987073.2021.2.8>).

- (4) 上記以外にも、本研究課題の科研費の補助を得て、各メンバーはそれぞれの専門分野で活発な研究活動を展開した。たとえば、村瀬は、ネットワーク科学の応用やサプライチェーンのシミュレーション、進化ゲーム理論等の分野で顕著な成果を挙げ、海外査読誌を中心に論文を量産し続けた。瀧川は、ソーシャルネットワークにおけるテキストの分析やそのネットワーク構造の分析などで着実に業績を上げた。福西は、コロナ禍のアフリカにおける教育や雇用に対する調査を行い、論文にまとめた。キハラハントは国連警察に関する研究や国連平和活動における性的搾取・性的暴力に関する研究で、顕著な業績を上げた。武内は、アフリカの国家と土地に対する研究を続け、英語で編著を出すなど大きな成果を残した。他にも枚挙のいとまがない。
- (5) 他方で、当初計画していた活動のうち、アフリカ等における現地調査を通じたガバナンスのネットワークの機能評価および実務家との交流を通じた政策提言については、研究期間後半を直撃した世界的な新型コロナウイルスの流行によって、海外渡航や人的交流が著しく制限されたため、思うように実施できぬまま終わってしまった。これらについては今後の課題としたい。他方で、上記(2)(3)の研究では、科研費補助金で多数の大学院生(国際関係論など社会科学分野が中心)をRAなどとして雇用し、先行研究のサーベイ、データの収集・処理、先端的なデータ分析の補助まで様々な業務に従事させた。こうした経験を通じてネットワーク科学やデータ科学の主要な分析手法を習得する大学院生も出てきており、本研究は人材育成という点でも一定の成果を挙げたと考えている。最後に、コロナ禍の中、オンラインの会議システムやSlack等のツールを積極的に活用して、研究組織内の相互作用を密にし、学際的な共同研究を効率的に進めることができた点は、当初想定していなかった成果であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 13件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 Takikawa Hiroki, Sakamoto Takuto	4. 巻 54
2. 論文標題 The moral emotional foundations of political discourse: a comparative analysis of the speech records of the U.S. and the Japanese legislatures	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Quality & Quantity	6. 最初と最後の頁 547 ~ 566
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11135-019-00912-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto Takuto	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 Cross-national analysis of global security discourse using word embeddings	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 APSA Preprint	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33774/apsa-2020-5k2mt	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto Takuto	4. 巻 2021
2. 論文標題 Governance for Sustainable Peace and Development: Interdisciplinary Study Based on Network Science and Data Science	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 8 ~ 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21820/23987073.2021.2.8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murase Yohsuke, Baek Seung Ki	4. 巻 10
2. 論文標題 Automata representation of successful strategies for social dilemmas	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-70281-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murase Yohsuke, Baek Seung Ki	4. 巻 10
2. 論文標題 Five rules for friendly rivalry in direct reciprocity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-73855-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murase Yohsuke, Baek Seung Ki	4. 巻 17
2. 論文標題 Friendly-rivalry solution to the iterated n-person public-goods game	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS Computational Biology	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pcbi.1008217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koji Oishi and Kentaro Sakuwa	4. 巻 巻号なし
2. 論文標題 Structural balance of alliance and rivalry networks in international relations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 arXiv	6. 最初と最後の頁 1~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 瀧川裕貴	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 世界および日本におけるデジタル社会調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 84~101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 65(4)
2. 論文標題 近年のアフリカ政治経済	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 64～70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 65(11)
2. 論文標題 ルワンダ 紛争後の急成長とその課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 72～78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤貢	4. 巻 538
2. 論文標題 アッシャバープの変容と展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 38～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤貢	4. 巻 2020年11月号
2. 論文標題 中国-アフリカ関係の現在	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 18～25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古城佳子	4. 巻 第940号
2. 論文標題 ポスト・トランプ状況と国際協調の行方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 196～203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福西隆弘	4. 巻 No.98
2. 論文標題 開発ミクロ経済学による貧困研究：その特徴とアフリカにおける研究成果の紹介	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 21～34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福西隆弘、佐藤千鶴子、網中昭世	4. 巻 No.59
2. 論文標題 特集にあたって：特集 コロナ禍におけるアフリカの人々	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 8～9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/africareport.59.0_8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪本 拓人	4. 巻 34
2. 論文標題 「平和に対する脅威」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 262～279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.34.262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murase Yohsuke, Jo Hang-Hyun, Janos Torok, Janos Kertesz, Kaski Kimmo	4. 巻 99
2. 論文標題 Sampling networks by nodal attributes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Physical Review E	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1103/PhysRevE.99.052304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murase Yohsuke, Jo Hang-Hyun, Janos Torok, Janos Kertesz, Kaski Kimmo	4. 巻 9
2. 論文標題 Structural transition in social networks: The role of homophily	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-40990-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 瀧川裕貴	4. 巻 22
2. 論文標題 社会学におけるビッグデータ分析の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会と調査	6. 最初と最後の頁 16~22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福西隆弘	4. 巻 41
2. 論文標題 マダガスカルにおける輸出向け縫製産業とその労働者 産業構造変化の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SERASERA	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Fukunishi and Christian S. Otchia	4. 巻 759
2. 論文標題 Youth Employment under Economic Growth in sub-Saharan Africa: School-to-Work transitions in urban Ghana and Kenya	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 ページ番号なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 200
2. 論文標題 アフリカ研究者の紛争研究 日本の国際政治学と紛争研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 23 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 8
2. 論文標題 コンゴ民主共和国の歴史と紛争 難民発生要因の見取り図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 難民研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 16 ~ 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 56
2. 論文標題 『ルワンダの奇跡』後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 50 ~ 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 117(1)
2. 論文標題 内戦後の土地問題とピネイロ諸原則：ルワンダ・ブルンジの比較から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際法外交雑誌	6. 最初と最後の頁 181-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 キハラハント愛	4. 巻 19
2. 論文標題 国連警察の武装化の要因分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国連研究	6. 最初と最後の頁 165-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kihara-Hunt Ai	4. 巻 21
2. 論文標題 Addressing Sexual Exploitation and Abuse	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of International Peacekeeping	6. 最初と最後の頁 62~82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/18754112-02101002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakai Yutaka, Takikawa Hiroki	4. 巻 -
2. 論文標題 Triadic Social Structure Facilitates Backing for Crowdfunding Projects	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IEEE International Conference on Big Data	6. 最初と最後の頁 ページなし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/BigData.2018.8621987	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 瀧川 裕貴	4. 巻 33
2. 論文標題 社会学との関係から見た計算社会科学の現状と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 132 ~ 148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.33.132	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamura Kohei, Takikawa Hiroki	4. 巻 461
2. 論文標題 Modelling the emergence of an egalitarian society in the n-player game framework	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Theoretical Biology	6. 最初と最後の頁 1 ~ 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jtbi.2018.10.037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murase Yohsuke, Baek Seung Ki	4. 巻 449
2. 論文標題 Seven rules to avoid the tragedy of the commons	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Theoretical Biology	6. 最初と最後の頁 94 ~ 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jtbi.2018.04.027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murase Yohsuke, Rikvold Per Arne	4. 巻 20
2. 論文標題 Conservation of population size is required for self-organized criticality in evolution models	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 New Journal of Physics	6. 最初と最後の頁 083023 ~ 083023
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1367-2630/aad861	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yohsuke Murase, Hang-Hyun Jo, Janos Torok, Janos Kertesz, Kimmo Kaski	4. 巻 9
2. 論文標題 Structural transition in social networks: The role of homophily	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 ページなし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-40990-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 光辻克馬、大石晃史、山影進	4. 巻 101
2. 論文標題 政治体間関係から生じる国際体系：複合政治体動態モデルによる一般的類型	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 4-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiko Kojo	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Global Issues and Business in International Relations: Intellectual Property Rights and Access to Medicines	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Relations of the Asia-Pacific	6. 最初と最後の頁 5~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪本 拓人	4. 巻 2021
2. 論文標題 国際政治における分極化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横幹連合コンファレンス予稿集	6. 最初と最後の頁 A-5-4~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11487/oukan.2021.0_A-5-4	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪本 拓人	4. 巻 2021(100号)
2. 論文標題 『アフリカ研究』1-99号の動向:掲載論文・記事の内容分析を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lee Sanghun, Murase Yohsuke, Baek Seung Ki	4. 巻 11
2. 論文標題 Local stability of cooperation in a continuous model of indirect reciprocity	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 14225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-93598-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Inoue Hiroyasu, Murase Yohsuke, Todo Yasuyuki	4. 巻 16
2. 論文標題 Do economic effects of the anti-COVID-19 lockdowns in different regions interact through supply chains?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0255031
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0255031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murase Yohsuke, Jo Hang-Hyun, Janos Torok, Janos Kertesz, Kaski Kimmo	4. 巻 4
2. 論文標題 Deep Learning Exploration of Agent-Based Social Network Model Parameters	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Big Data	6. 最初と最後の頁 ページなし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fdata.2021.739081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Murase Yohsuke, Kim Minjae, Baek Seung Ki	4. 巻 12
2. 論文標題 Social norms in indirect reciprocity with ternary reputations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-04033-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Oishi Koji, Miyano Shuhei, Kaski Kimmo, Shimada Takashi	4. 巻 104
2. 論文標題 Balanced-imbanced transitions in indirect reciprocity dynamics on networks	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Physical Review E	6. 最初と最後の頁 24310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1103/PhysRevE.104.024310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ueshima Atsushi, Takikawa Hiroki	4. 巻 巻なし
2. 論文標題 Analyzing Vaccination Priority Judgments for 132 Occupations Using Word Vector Models	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IEEE/WIC/ACM International Conference on Web Intelligence	6. 最初と最後の頁 76-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3498851.3498933	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lyu Zeyu, Takikawa Hiroki	4. 巻 10
2. 論文標題 The Disparity and Dynamics of Social Distancing Behaviors in Japan: Investigation of Mobile Phone Mobility Data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JMIR Medical Informatics	6. 最初と最後の頁 e31557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/31557	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 福西 隆弘	4. 巻 59
2. 論文標題 コロナ禍におけるアジスアベバの若者の雇用 職業訓練校卒業生の追跡調査より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 85～99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/africareport.59.0_85	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 巻 2
2. 論文標題 Japan's Peace Policy in Africa: Discussion towards TICAD VIII	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ASC-TUFS Working Papers	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古城佳子	4. 巻 120
2. 論文標題 COVID-19と『自由主義国際秩序』:合意と懐疑	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際法外交雑誌	6. 最初と最後の頁 339-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計73件(うち招待講演 19件/うち国際学会 39件)

1. 発表者名 Takuto Sakamoto
2. 発表標題 Quantitative Text Analysis of the Speech Records of the United Nations Security Council
3. 学会等名 Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting, London, United Kingdom (held virtually) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪本拓人
2. 発表標題 国際安全保障のなかのアフリカ：国連安全保障理事会の政策討議から
3. 学会等名 第1回「アフリカ政策パネル」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Y. Murase and S.K. Baek
2. 発表標題 Five rules for friendly rivalry in direct reciprocity
3. 学会等名 Roles of heterogeneity in non-equilibrium collective dynamics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 J. Kertesz, Y. Murase, J. Torok, H.-H. Jo, K. Kaski
2. 発表標題 Selection of communication channels and the related sampling bias for mapping out the network of social interactions
3. 学会等名 NetSci 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 H. Inoue, Y. Murase, Y. Todo
2. 発表標題 The economic effect of the restriction by Japanese government under COVID-19
3. 学会等名 NetSci 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村瀬洋介, S.K. Baek
2. 発表標題 繰り返し囚人のジレンマにおけるパートナーかつライバルの戦略
3. 学会等名 日本物理学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村瀬洋介
2. 発表標題 大規模計算で探す囚人のジレンマの最強戦略
3. 学会等名 ネットワーク科学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Koji Oishi
2. 発表標題 Network Analysis of Global Aid Flow and the Positions of UN Agencies and Offices
3. 学会等名 Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting, London, United Kingdom (held virtually) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Koji Oishi, Kentaro Sakuwa
2. 発表標題 Signed network structure of international relations
3. 学会等名 PaCSS and PolNet 2020 conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石晃史
2. 発表標題 国際政治における敵対と友好のネットワーク構造
3. 学会等名 ネットワーク科学セミナー2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瀧川裕貴
2. 発表標題 デジタル社会調査の可能性
3. 学会等名 人工知能学会全国大会(第34回) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瀧川裕貴・永吉希久子
2. 発表標題 日本のtwitterにおけるイデオロギーによるオーディエンスフラグメンテーション」
3. 学会等名 第70回数理社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀧川裕貴
2. 発表標題 ソーシャルキャピタルと社会秩序
3. 学会等名 第1回日本社会関係学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 Data Analysis of Elements that Foster Sexual Exploitation and Abuse in UN Peace Operations
3. 学会等名 Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting, London, United Kingdom (held virtually)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takuto Sakamoto
2. 発表標題 Measuring Threat Perception: Text Analysis of the Speech Records of the United Nations Security Council
3. 学会等名 The 2nd Annual Conference on Politics and Computational Social Science, Washington D.C., United States (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪本拓人
2. 発表標題 安全保障の言説分析：国連安保理における四半世紀の討議から
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪本拓人
2. 発表標題 サヘルにおける牧畜民と農耕民の対立と共生：シミュレーションによる検討
3. 学会等名 龍谷大学社会科学研究所「アフリカ潜在力再検証」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takuto Sakamoto and Koji Oishi
2. 発表標題 Computational Approaches to Politics and International Relations
3. 学会等名 European Research Center for Political Culture (EPCAM) Workshop, Bucharest, Romania (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takuto Sakamoto
2. 発表標題 Computational Analysis of the Speech Records of the United Nations Security Council
3. 学会等名 Social Fabrics Research Lab (FABLAB) Seminar on Big Data Analysis in International Relations, Timisoara, Romania (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yohsuke Murase et al.
2. 発表標題 A large-scale search for successful strategies for social dilemma using the K-computer
3. 学会等名 The 5th Workshop on Self-Organization and Robustness of Evolving Many-Body Systems (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohsuke Murase et al.
2. 発表標題 Computational Ethnics for the Tragedy of the Commons
3. 学会等名 Self-Organization and Complexity in Social System (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohsuke Murase et al.
2. 発表標題 Sampling Networks by Nodal Attributes
3. 学会等名 NetSci 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Oishi
2. 発表標題 Network analysis for the split and merger dynamics of armed groups
3. 学会等名 Political Network Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Oishi and Takayuki Hiraoka
2. 発表標題 Genealogical network analysis of social group evolution
3. 学会等名 Conference on Complex Systems 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koji Oishi and Kentaro Sakuwa
2. 発表標題 Evolution of alliance and rivalry networks in international relations
3. 学会等名 The 8th International Conference on Complex Networks and their Applications (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀧川裕貴
2. 発表標題 計算社会科学は因果メカニズムの解明に役立ちうるか
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 Cooperation in the Rule of Law and Policing at the United Nations System
3. 学会等名 The 19th Trilateral East Asian Seminar on the United Nations System: Multilateralism in East Asia and the United Nations, Korea (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 The Relationship between the Rule of Law and Development
3. 学会等名 Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting: The UN and Africa: Progress Towards Achieving the SDGs (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 The Effects of Sexual Exploitation and Abuse (SEA) on UN police Operations
3. 学会等名 British International Studies Association (BISA) Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt and Raymond Andaya
2. 発表標題 Emerging Powers and Human Rights in the Peace Process
3. 学会等名 東京平和構築フォーラム2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahiro Fukunishi
2. 発表標題 Key areas in growth exploration and conservation
3. 学会等名 South Africa-Japan University Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Christian S. Otchia and Takahiro Fukunishi
2. 発表標題 Youth Employment under Economic Growth in sub-Saharan Africa
3. 学会等名 国際開発学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi and Jean Marara
2. 発表標題 Land Law Reform and State-building in Rwanda
3. 学会等名 PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development, Huye, Rwanda (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤貢
2. 発表標題 制度化なき民主体制のバックラッシュ? : サハラ以南アフリカの経験
3. 学会等名 日本政治学会2019年度総会・研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪本拓人
2. 発表標題 国際社会における脅威認識の動態：自然言語処理と機械学習による分析
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯川拓、阪本拓人
2. 発表標題 選挙監視をめぐる国際政治と国内政治
3. 学会等名 2018年度日本政治学会研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 1990年代以降の土地法改革はアフリカに何をもたらしたか
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会口頭発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Land registration in Rwanda: The motivations and consequences
3. 学会等名 61st African Studies Association annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 キハラハント愛
2. 発表標題 国連平和活動の現場で性的暴力の起こる背景の分析ー予防と個人責任
3. 学会等名 フロンティア科学講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 Analysis of Reform of Mechanisms on Sexual Exploitation and Abuse in the UN Peace Operations
3. 学会等名 人間の安全保障学会年次会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kate Gilmore, Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 Challenges of Human Rights in Japan
3. 学会等名 Geneva Dialogue: Academic Council on the United Nations System and the United Nations Office in Geneva
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 The Influence of UN Human Rights Mechanisms on Women's Rights in the Sphere of Marriage and Family Life in Japan
3. 学会等名 Academic Council on the United Nations System Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 キハラハント愛
2. 発表標題 警察と日本の国際平和協力
3. 学会等名 日本の国際協力を考える研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takikawa Hiroki, Inagaki Yusuke, Obayashi Shinya
2. 発表標題 Online Randomized Experiment on Social Influences upon Behaviors in Web Forums
3. 学会等名 XIX ISA world congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takikawa Hiroki, Inagaki Yusuke, Obayashi Shinya
2. 発表標題 Online randomized experiment for identifying the mechanism of opinion dynamics in web forums
3. 学会等名 11th Annual INAS Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takikawa Hiroki, Nagayoshi Kikuko
2. 発表標題 Do echo chambers exit on Japanese Twitter?
3. 学会等名 CeDEM Asia 18 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakai Yutaka, Takikawa Hiroki
2. 発表標題 Triadic Social Structure Facilitates Backing for Crowdfunding Projects
3. 学会等名 2018 IEEE International Conference on Big Data (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀧川裕貴
2. 発表標題 計算社会科学と因果推論
3. 学会等名 第67回数理社会学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yohsuke Murase
2. 発表標題 Seven rules to avoid the tragedy of the commons
3. 学会等名 The 6th International Workshop on Physics of Social Complexity (PoSCo) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohsuke Murase
2. 発表標題 Successful strategies in the tragedy of the commons
3. 学会等名 Games on Networks: from Theory to Experiments (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村瀬洋介
2. 発表標題 繰り返し公共財ゲームにおける負けないことが保証された直接互惠戦略
3. 学会等名 日本物理学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yohsuke Murase
2. 発表標題 What does big data tell? Sampling the social network by communication channel
3. 学会等名 Network Science workshop in Kobe (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村瀬洋介
2. 発表標題 生態進化モデルにおけるSOCの発現条件
3. 学会等名 日本物理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平岡喬之、大石晃史
2. 発表標題 集団の分裂統合の系譜ネットワークによる表現
3. 学会等名 日本物理学会2018年秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大石晃史
2. 発表標題 紛争下の離合集散に構造はあるか：ネットワーク分析
3. 学会等名 日本国際政治学会2018 年研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大石晃史
2. 発表標題 コンゴ民主共和国における武装勢力の分裂統合
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Oishi, Takamitsu Watanabe, Naoki Masuda
2. 発表標題 Overlapping communities in correlation matrices
3. 学会等名 NetSci 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Oishi
2. 発表標題 Network Analysis for the Split and Merger Dynamics of Armed Groups
3. 学会等名 ISA Annual Convention 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahiro Fukunishi
2. 発表標題 Vocational Education and Employment Outcomes in Ethiopia: Displacement Effects in Local Labor Markets
3. 学会等名 Annual Bank Conference on Africa (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takuto Sakamoto, Koji Oishi
2. 発表標題 The Evolution of Global Development Cooperation: An Analysis with Stochastic Block Models
3. 学会等名 2021 Annual Convention of the Japan Association of International Relations (JAIR) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪本拓人
2. 発表標題 国際政治における分極化: 国連安全保障理事会の議事録のテキスト分析から
3. 学会等名 第12回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yohsuke Murase, Seung Ki Baek
2. 発表標題 Friendly-rivalry solutions for direct reciprocity
3. 学会等名 ALIFE 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yohsuke Murase
2. 発表標題 Developing meta-models for an agent-based social network model using deep learning
3. 学会等名 Roles of heterogeneity in non-equilibrium collective dynamics (RHINO 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村瀬洋介
2. 発表標題 社会ネットワークの数理モデリング
3. 学会等名 ネットワーク生態学シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瀧川裕貴・呂沢宇
2. 発表標題 ディープラーニングによるセンチメント分析の社会科学における応用
3. 学会等名 選挙学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Zeyu Lyu, Hiroki Takikawa
2. 発表標題 Anti-China Sentiments during the COVID-19 pandemic: An Analysis Using Deep Learning Methods
3. 学会等名 International Conference on Computational Social Science (IC2S2 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀧川裕貴, 水野誠
2. 発表標題 ソーシャルメディア上での行動は社会的差異をシグナルするか?
3. 学会等名 計算社会科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瀧川裕貴, 水野誠
2. 発表標題 ソーシャルメディア上での行動と社会階層との関連: ツイート・サーベイ統合データの擬似予測法(fictitious prediction)による分析
3. 学会等名 数理社会科学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 Recent shifts in the UN 's Approach to Accountability for Misconduct and Sexual Exploitation and Abuse
3. 学会等名 Humanities Centre Seminar
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ai Kihara-Hunt
2. 発表標題 R2P and the United Nations
3. 学会等名 Japan National Dialogue on the Responsibility to Protect (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 アフリカ研究からブラック・ライヴズ・マターを考える 地域研究への示唆
3. 学会等名 JCAS年次総会一般公開シンポジウム「地域研究とグローバル・アジェンダ 『濃い研究』のもたらず視座 」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Policy Concepts and Normative Rationales in Japan's Foreign Aid Human Security, TICAD, and Free and Open Indo-Pacific
3. 学会等名 国際開発学会第32回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 International Relations and African Studies in Japan: With special focus on historical and institutional factors
3. 学会等名 International Studies Association 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 Takehiko Ochiai, Misa Hirano-Nomoto, Daniel E. Agibiboa, Takuto Sakamoto, and others	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa	5. 総ページ数 296
3. 書名 People, Predicaments and Potentials in Africa	

1. 著者名 鳥海不二夫（編著者），瀧川裕貴ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 322
3. 書名 計算社会科学入門	

1. 著者名 末近 浩太、遠藤 貢	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 紛争が変える国家	

1. 著者名 東京大学教養学部，キハラハント愛ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 202
3. 書名 異なる声に耳を澄ませる	

1. 著者名 Mitsugi Endo, Ato Kwamena Onoma, Michael Neocosmos, Shinichi Takeuchi, and others	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa	5. 総ページ数 290
3. 書名 African Politics of Survival Extraversion and Informality in the Contemporary World	

1. 著者名 佐藤章（編著），遠藤貢ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 171
3. 書名 サハラ以南アフリカの国家と政治のなかのイスラーム 歴史と現在	

1. 著者名 高橋宗瑠（編者）、キハラハント愛ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 182
3. 書名 Civil and political rights in Japan : a tribute to Sir Nigel Rodley	

1. 著者名 Yasuo Matsunami and Shinichi Takeuchi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 African Studies Center, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 321
3. 書名 Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa	

1. 著者名 川島 真、遠藤 貢、高原明生、松田康博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 中国の外交戦略と世界秩序	

1. 著者名 北岡 伸一、細谷 雄一（編著者）、遠藤貢ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 424
3. 書名 新しい地政学	

1. 著者名 羽場 久美子、若松 邦弘、大津留（北川） 智恵子、水島 治郎、金子 勝、河合 正弘、朱 建榮、望月 衣 塑子、下斗米 伸夫、川上 泰徳、遠藤 貢	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 190
3. 書名 21世紀、大転換期の国際社会	

1. 著者名 落合雄彦、遠藤貢など全25名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 315
3. 書名 アフリカ安全保障論入門	

1. 著者名 Shinichi Takeuchi, Yusuke Takagi, Veerayooth Kanchoochat, Tetsushi Sonobe	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 185
3. 書名 Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies	

1. 著者名 Saul J. Takahashi (ed), Ai Kihara-Hunt, Kana Sasaoka, Fumie Saito, Ian Neary, Tara Van Ho and Theodora N. Valkanou, Naoko Hashimoto, Mina Watanabe	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 182
3. 書名 Civil and Political Rights in Japan: A Tribute to Sir Nigel Rodley	

1. 著者名 Park, Gene, Saori N. Katada, Giacomo Chiozza, and Yoshiko Kojo	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Cornell University Press	5. 総ページ数 235
3. 書名 Taming Japan's Deflation: The Debate over Unconventional Monetary Policy	

1. 著者名 大矢根聡、古城佳子、初瀬龍平、田村哲樹、菅英輝、山口育人、鄭敬娥、三牧聖子、鈴木一敏、東野篤子、都留康子、栗栖薫子、松井康浩	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 259
3. 書名 グローバル・ガバナンス学I: 理論・歴史・規範	

1. 著者名 Modesto Seara Vazquez, Ai Kihara-Hunt, et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Universidad del Mar	5. 総ページ数 423
3. 書名 Pandemic: The Catastrophic Crisis	

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 203
3. 書名 African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities	

1. 著者名 武内進一・中山智香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 382
3. 書名 ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ: アメリカからグローバル世界へ	

1. 著者名 遠藤貢、國分功一郎、石田淳ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 426
3. 書名 地球的思考: グローバル・スタディーズの課題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	古城 佳子 (Kojo Yoshiko) (30205398)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	遠藤 貢 (Endo Mitsugi) (70251311)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	武内 進一 (Takeuchi Shinichi) (60450459)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	福西 隆弘 (Fukunishi Takahiro) (80450526)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター・主任調査研究員 (82512)	
研究分担者	キハラハント 愛 (Kihara-Hunt Ai) (10806459)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	瀧川 裕貴 (Takikawa Hiroki) (60456340)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	村瀬 洋介 (Murase Yohsuke) (30709770)	国立研究開発法人理化学研究所・計算科学研究センター・研究員 (82401)	
研究分担者	大石 晃史 (Oishi Koji) (60814944)	青山学院大学・国際政治経済学部・研究員 (32601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------